

## 編集後記

創価教育研究所は、2020年4月より「池田大作記念創価教育研究所」として新たなスタートを切った。これは、2019年4月に発表された創価大学創立50周年記念事業において、創立者の思想・実践・創価教育に関する研究を推進すべく、「池田大作記念創価教育研究所への改組」が基本計画に盛り込まれたことによるものである。

また、創価大学の2030年までの中長期計画として策定された「Soka University Grand Design 2021-2030」においても、「池田大作記念創価教育研究所の事業展開」として、「世界市民教育の拠点構築を目指し、国際共同研究を通じた研究者のネットワーク構築、創価教育に関する刊行物の発刊やシンポジウム開催等による教育・研究成果の発信」に取り組むこととなった。これらの事業を着実に進めるべく、研究所内に国際部会、研究・教育部会、資料部会の3部会が発足をみている。

このように研究所の新出発となった2020年度は、これまでの蓄積を踏まえた多くの成果を世に問う一年ともなった。まず、『評伝 戸田城聖（下）』が2021年3月に第三文明社より発刊された。同書は2019年刊行の『評伝 戸田城聖（上）』に続き、本研究所が調査・収集した資料を提供し、最新の研究成果に基づいて編纂されたものである。また創立50周年事業の一環として、『創立の精神を学ぶ』中国語版や『創価大学50年の歴史』の編纂、記念展示の制作等を進めてきた。

『創価教育』第14号には、このような研究成果の一端を収録するとともに、多様な学問的基盤に立脚して創価教育の思想と展開を扱った論考を掲載することができた。

まず論文として、若井絹夫氏による「牧口常三郎の幼少期と壬申戸籍」、劉幸氏による「デューイの中国経験再考」の2本を掲載した。また研究ノートとして、犬飼希望氏より「Ikeda/Soka Studies in Education: A Review of the Anglophone Literature」を和訳とともにご寄稿いただいた。いずれも、当研究所の2020年度研究会での発表と議論をもとにまとめられた論考である。

本紀要には毎年、大学の主要な式典における来賓の祝辞を特別講演として掲載している。本号には、ガンジー思想開発基金名誉執行理事兼議長のエラ・ガンジー氏による創大祭へのビデオメッセージを収録した。

次に、2020年に行われた創価教育に関する講演の中から2本を収録した。本年度より研究所教授に就任したアンドリュー・ゲバート所員の「牧口常三郎の経験から教育の「時空混乱時代」の可能性を読む」は、2020年11月16日に開催した『創価教育学体系』発刊90周年記念シンポジウムの基調講演である。「History and Overview of Soka Education: Practical Implications」は、フィリピンのイースト大学で開催された池田思想シンポジウム（2020年2月29日）での富岡比呂子所員の講演である。

中国における「池田思想」研究の動向についての報告は、本号で17回目を迎えた。2020年度に開催された池田思想研究の学術シンポジウム等のほか、池田研究の成果等を紹介している。

このたび創価大学創立50周年を記念して、『創価大学50年の歴史』を刊行する運

びとなった。研究所は2008年に創価大学50年史編纂室を設置し、長年にわたり同書の編纂業務に中心的な役割を果たしてきた。同書の編纂にあたって使用した出典資料の一覧を、資料紹介として収録している。

おわりに、今回の紀要に原稿をお寄せ下さった諸先生方、そして紀伊國屋書店をはじめ御協力・御尽力いただいた方々に、この場を借りて篤く御礼を申し上げたい。

2021年3月 (T.S.)